平成２９年度　小教研授業研究会　川崎市立小学校国語教育研究会

書写学習指導案

研究会テーマ

生きてはたらく言葉の力を育てる国語教室

５年

字形を整えて書こう

～部分の組み立て方１（にょう）～

授業者　清水　健吾

岩野　真斗

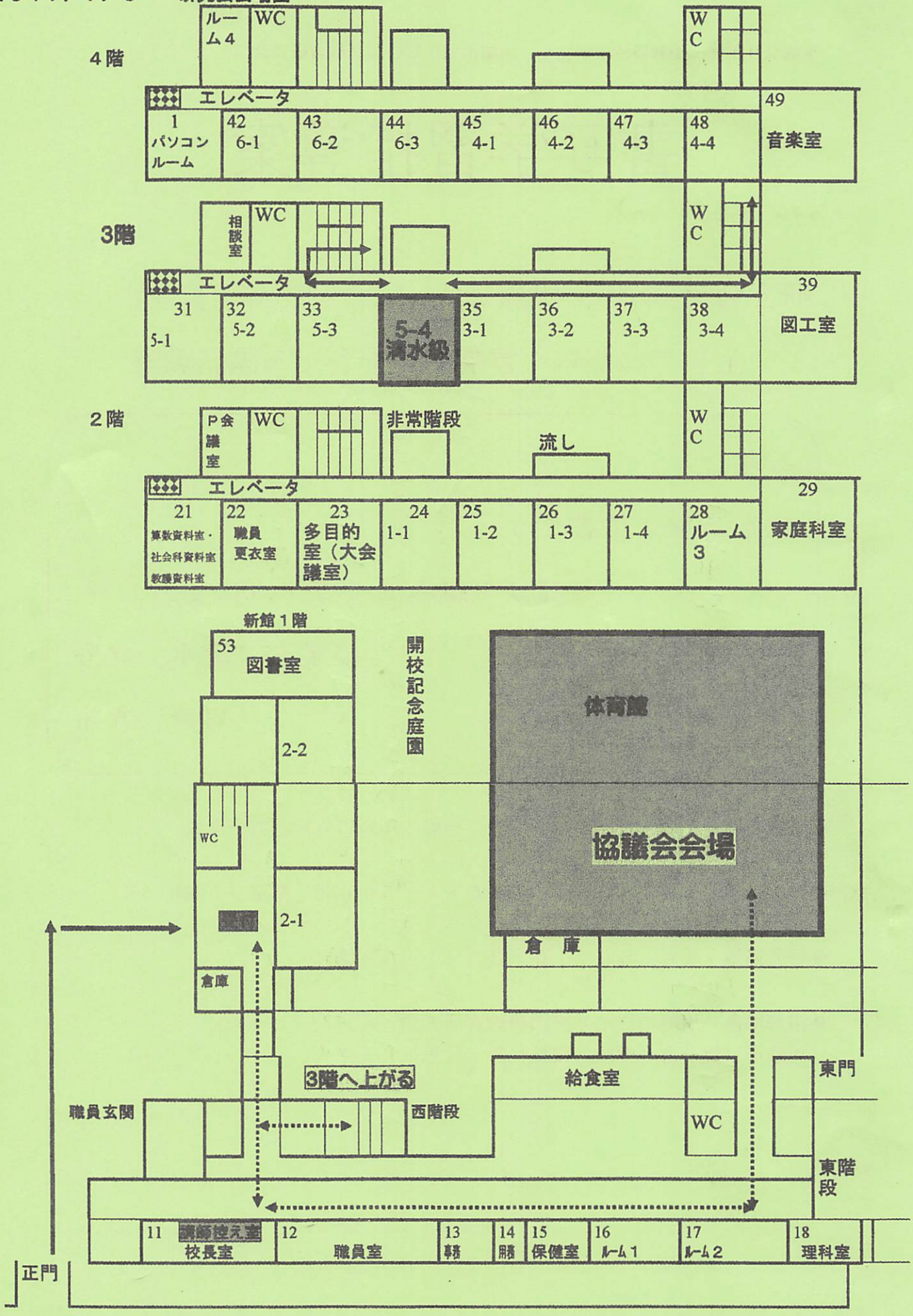
平成２９年　７月５日（水）　　会場：川崎市立宿河原小学校

◆授　　業　１３：３０～１４：１５・・・５年４組　教室（３階）

◆研究協議　１４：５０～１６：３０・・・体育館

◆指導助言　川崎市立小学校国語教育研究会　副会長
川崎市立梶ヶ谷小学校　校長　井上　恵子　先生

２０１７．７．５　研究会会場図



第５学年４組　書写学習指導案

指導者　清水　健吾　岩野　真斗

１．日時・場所　平成２９年７月５日（水）　13時30分～14時15分　５年４組教室

２．単元名　字形を整えて書こう　～部分の組み立て方１（にょう）～

３．単元目標　「しんにょう」の書き方や部分の組み立て方を理解して字形を整えて書く。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
（２）書写に関する事項
ア　文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。

４．単元の評価規準

関心・態度・意欲	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・「しんにょう」と部分の組み立て方について確認して字形を整えて書こうとしている。 ・文字意識をもって、日常文字を書こうとしている。	・「しんにょう」と部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。

５．単元について

（１）児童の実態

新しい知識や課題に対して、興味深く学ぶ児童が多い。書写学習の活動の仕方にも慣れ始め、硬筆での「ことばカード」や友だちとの作品の交流に期待をもったり、楽しんだりする姿がある。

新学年での初めての書写学習では、姿勢や筆の持ち方等の基礎や基本点画についてふりかえる授業を行った。これまでの単元学習の中で、既習事項の点画や筆運びの用語や穂先の動きの確認をしたり、演示や、手を添えて共に書いたりすることで、徐々に思い出しながら半紙に向かっている様子である。

「書写＝筆で文字を書くもの」というイメージが強くあり、書写学習と日常文字とを切り離して考えている児童が多い。そこで、毛筆で学んだことを生かし、自分の考えた短文を書くという活動を単元終盤に毎回取り入れることで、日常文字への活用に一歩ずつ近づいていけるように試みている。思い思いの言葉を、「きれいに書けた。」「友だちにほめてもらえた。」という喜びが、日常の文字意識の向上とともに、研究テーマである、生きてはたらく言葉の力の伸長に結んでほしい。

（２）テーマに迫るための手立て

①　思いをもって書く

課題文字のどの部分に子どもたちの意識を向かわせるのかをはっきりとさせる。ためし書きをしてから、手本を提示し、部分の組み立て方や字形について比べることで、「どこを、どのようにうまくしたいか。」という自分の文字への課題をもつことができようにする。

② 基礎基本との往復

姿勢、筆のもち方、用具の扱い方・既習の基本点画について繰り返し、指導・評価していくことで、力の定着と伸長を実感できるようにする。そうすることで、日常的な文字意識の向上や今後の学習における解決課題がより明確になっていくと考える。

③毛筆での学びを日常文字へつなぐ「ことばカード」

毛筆での学びを単元のまとめに「ことばカード」にして書くという見通しをもつことで、毛筆での学びが、硬筆に生かされるということを実感できるようにする。

6．指導計画（全４時間）

<table>
<tr><th>時</th><th>ねらいと評価</th><th>学習活動</th><th>指導上の留意点</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td>毛筆
1．「道」の試し書きをする。</td><td>・筆順を確認する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">「しんにょう」と部分の組み立て方に気をつけて、「道」を書こう。</td></tr>
<tr><td></td><td>【関】
・「しんにょう」をもつ漢字の字形の整え方を進んで考えようとしている。
（発言・活動の様子）</td><td>2．「しんにょう」と部分の組み立て方を確かめる。</td><td>・手本を用意し、自分のためし書きと比べることで、正しい部分の組み立てや字形について気づけるようにする。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>3．「道」を籠字し、字形を把握しながら書く。</td><td>・半紙大の手本を用意し、赤鉛筆で筆順通りに籠字ができるようにする。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>4．活動をふりかえり、次時のめあてをもつ。
≪ふりかえりの視点≫
・試し書きと最後の一枚を見比べ、うまくいった点と難しい点を見つける。</td><td>・ふりかえりを交流し、次時以降のめあてにつながる発言を画用紙に書き留める。
・次時のめあてがもてるように、手本に自分のめあてを書くように伝える。</td></tr>
<tr><td>2
3</td><td></td><td>毛筆</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">「しんにょう」と部分の組み立て方に気をつけて、「道」を書こう。</td></tr>
<tr><td></td><td>【言】
「にょう」と部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。
（活動の様子・作品）</td><td>1．めあてを確認し、しんにょうの練習をする。
≪しんにょうの書き方≫

①１画目と２画目の間隔
①２画目右下への傾斜
②３画目の始筆位置と筆使い</td><td>・前時のふりかえりを確認し、めあて意識をもって活動に取り組めるようにする。
・書き方を意識して書けるように、ポイントカード（左記参照）を掲示し、写し書きワークシートを用意する。（資料①）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>2．部分としんにょうの組み立て方に気をつけて書く。</td><td>・部分としんにょうの組み立て方を意識して書けるように、ポイントカードを掲示する。</td></tr>
</table>

		≪部分の組み立て方≫ ①文字の中心を通る画 ②しんにょうの１画目の位置 ③右払い始めの位置	・課題解決をしながら書けるように、朱書きを加えたり、うまく書けた点を評価したりしながら机間指導をする。 ・活動後半から、「ことばカード」にどのようなことを書くか考えながら取り組めるように、声かけを行う。
		３．学習をふりかえり次時の見通しをもつ。	・互いに書いた文字を見合い、交流する時間をとり、次時への期待感とめあてがもてるようにする。
④本時		毛硬	
	学習したことを生かして書こう。		
	【関】 ・文字意識をもって、日常文字を書こうとしている。 （言葉カード・交流の様子）	１．めあてや書き方を確認する。	・半紙とことばカードを事前に配付しておく。 ・めあてと書き方を意識できるように、演示する。 ・書き方をふりかえることができるように前時までのポイントカードを掲示しておく。
		２．毛筆で「道」を書く。	・席の近い友だち同士でめあてを伝え合ってから活動を始めるように声かけをする。
		３．毛筆作品に添える「ことばカード」を書く。	・個々の上達を認めながら、机間指導をする。 ・学習したことを生かせるよう、題名、本文に「道」という漢字を使うよう伝える。
		４．作品を見合い、学習をふりかえる。	・互いの作品を見合い、交流をすることで、日常文字の意識を高められるようにする。

7．本時

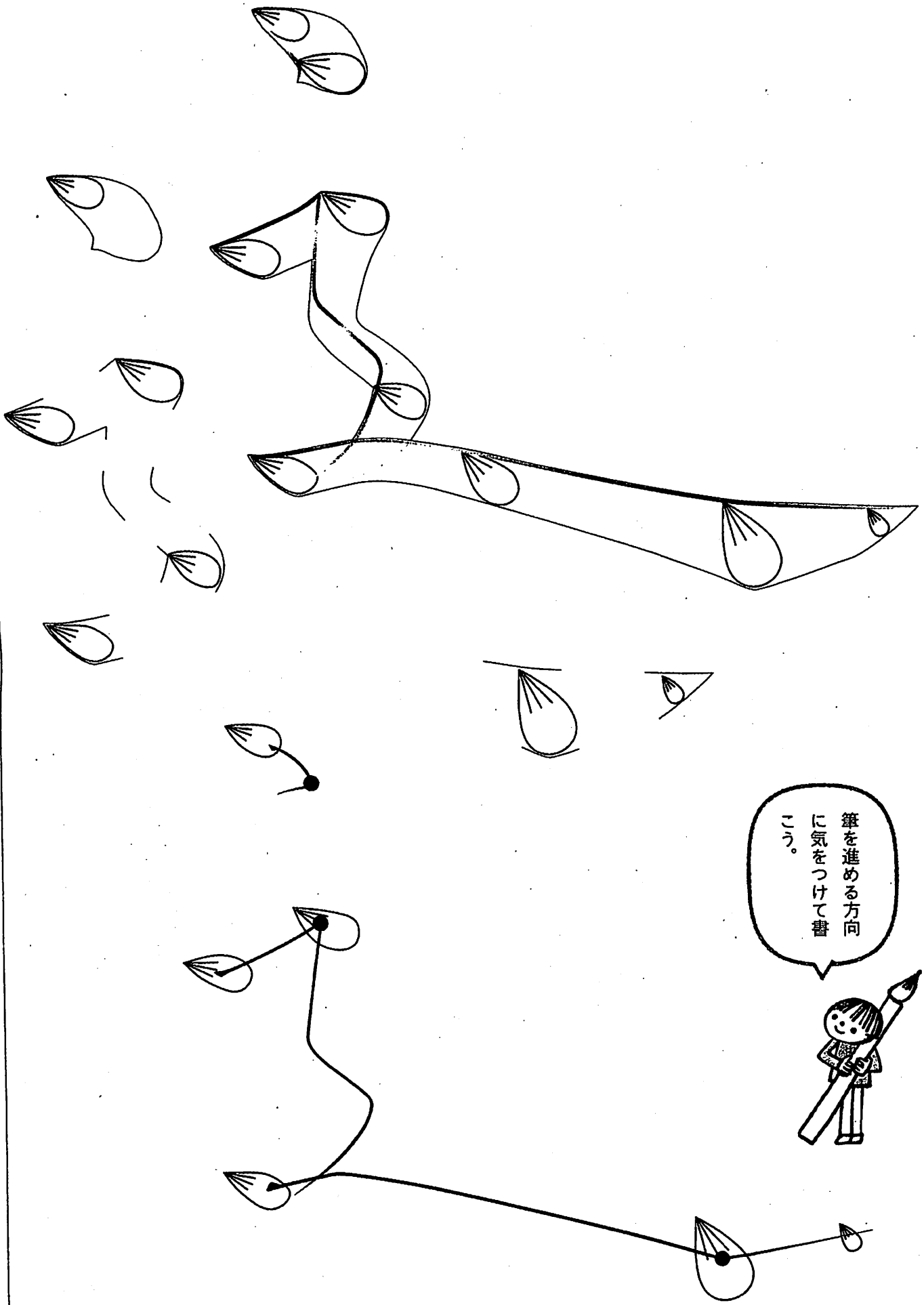
（1）目標

「しんにょう」と部分の組み立て方について学んだことを生かして毛筆・硬筆で書く。

（2）展開

ねらいと評価	学習活動	指導上の留意点
学習したことを生かして書こう。		
【関】 ・文字意識をもって、日常文字を書こうとしている。 （言葉カード ・交流の様子）	1．めあてや書き方を確認する。	・半紙とことばカードを事前に配付しておく。 ・めあてと書き方を意識して書けるように、児童のめあてを聞き、演示して書く。 ・書き方をふりかえることができるように前時までのポイントカードを掲示しておく。
	2．毛筆で「道」を書く。	・席の近い友だち同士でめあてを伝え合ってから活動を始めるように声かけをする。 ・個々の上達を認めながら、机間指導をする。
	3．毛筆作品に添える「ことばカード」を書く。 硬毛一体作品 	・硬筆作品を書けるよう、下敷きを膝の上に乗せ、机上を整理するよう伝える。 ・ことばカードの使い方を確認する。 ≪ことばカードの使い方≫ ① 余白は作品の額縁。 ② 名前は左下本文より下に落ちないように書く。 ③ 題名と本文に課題文字を必ず使う。
	3．作品を見合い、学習をふりかえる。	・出来上がった児童から作品を見合えるように「ことばカード」を毛筆作品にのりづけし、黒板にはりつけるよう促す。 ・互いの上達を認め、日常文字への意識向上を促せるよう、めあてを伝え合った友だち同士で交流をするように伝える。

筆使いや字形に気をつけて、「しんにょう」を書こう。



平成２９年７月５日
川崎市立小学校国語教育研究会

【平成２９年度書写授業研究会資料】

新学習指導要領における「書写」の扱いについて

○【知識・技能】の内容

（１）言葉の特徴や使い方に関する事項

（２）情報の扱いに関する事項

（３）我が国の言語文化に関する事項

○伝統的な言語文化　○言葉の由来や変化　○書写　○読書

○書写の内容

ここに示す内容を理解し使うことを通して、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要である。

文字のまとまった学習は、小学校入学を期に始まる。文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項へと、内容を系統的に示している。さらに、文字や文字の集まりの書き方を基礎として、筆記具を選択し効果的に使用するなど、目的や状況に応じて書き方を判断して書くことについて示している。

なお、「第３　指導計画の作成と内容の取り扱い」の２（１）カに示している書写の学習指導の配慮思考を踏まえる必要がある。

第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年
ウ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ア）姿勢や筆記具の持ち方を正しくして使うこと。 （イ）点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 （ウ）点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して書くこと。	エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ア）文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 （イ）漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 （ウ）毛筆を使用して点画の描き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。	エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ア）用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 （イ）毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 （ウ）目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

【内容の取扱いについての配慮事項より抜粋】

毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うように指導するとあるのは、毛筆を使用して書写の指導を行うことのねらいを明確にしたものである。毛筆を使用する書写の指導が、毛筆書写の能力の育成で完結してしまわないように、毛筆と硬筆との関連的な指導を一層工夫することを求めている。

「センター研修　国語科教育ワークショップⅠ・Ⅱ」のご案内

研修テーマ

学びの主体を子どもにおいた授業づくり

日時：平成２９年７月２７日（木）9:30～16:30　会場：川崎市立宮内小学校

午前：講義（9:30～12:00）コース名 201-1　学びの主体を子どもにおいた授業づくり

演題「学びの主体を子どもにおいた授業づくり」

～新学習指導要領を見据えて～

講師：東京学芸大学　准教授　中村和弘先生

新学習指導要領が示され、「解説」も文部科学省のホームページにアップされました。今年度は、周知の年として位置づけられており、来年度からの移行に向けて、様々な取り組みが始まります。

新学習指導要領では、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で、深い学び」「カリキュラム・マメジメント」など、耳慣れない用語がたくさん使われています。それらの用語をわかりやすく解説しながら、国語科の目標や内容がどのように変わったのかについてお話しします。

その上で、「実際の授業を考える上でどこがポイントとなるのか」「これからどのような取り組みをしていけばよいのか」等について、参加の先生方と一緒に考えていきたいと思います。

午後：実践紹介とワークショップ(13:30～16:30)コース名 201-2 国語科授業づくりに学ぶ

（校種間つながりを大切に考えています。校種にかかわらず受講できます。）

小学校：話すこと・聞くことの授業づくり～系統性を意識して～

話すこと・聞くことの授業を行っていくにあたり、単元計画や評価に困り感をもっている先生方が多いのではないでしょうか。そこで今回は低学年と高学年の**実践をもとに、学年間の違いを考えながら見取りと評価について学んだり、実際に原稿をつくってスピーチしたりと**夏休み明けからの国語の指導に、すぐに生かせる研修内容です。

中学校：話し合い活動における「聞くこと」の指導

「話すこと・聞くこと」について、日ごろの授業で疑問に思っていることや困っていることなどをグループで気軽に話し合えるような機会にしたいと考えています。また、「話すこと・聞くこと」の実践をいくつか紹介させていただきます。

センター研修はSAINS-WEBの「研究・研修関係」からログインすることで受講申請ができます。

「書写指導の基本」　永田作治・柏植昌汎著　より

☒「辶」の指導五つのポイント

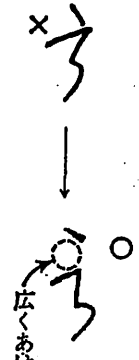
「辶」は数多い漢字の部首のなかで、形を整えて書くことがむずかしいものの一つである。児童・生徒の書く、字形上の陥りやすい欠点を分析し、指導上のポイントを五つ示してみる。

道

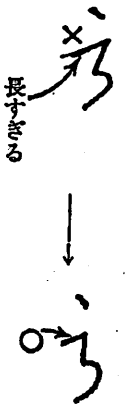
「首」と「辶」が調和されていない。

＊ 指導上のポイント

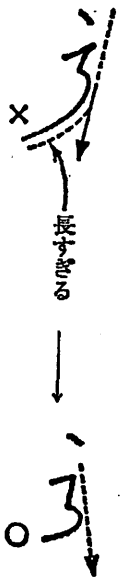
① 一画めの点と二画めの間を広くあける。



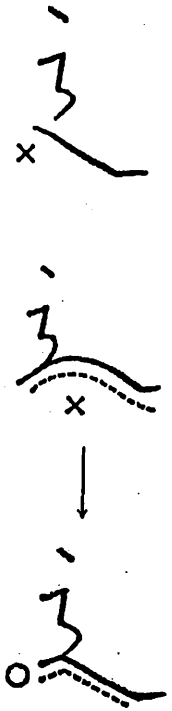
② 二画めの始筆部の横を短く書く。



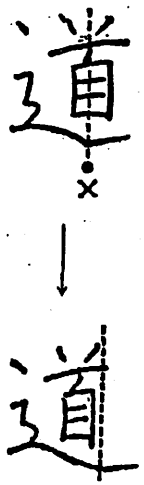
③ 二画めは右下へ向けて書き、左方向へ流さず、下部を長く書かない。



④ 三画めの右払いの始筆部を、少し上へ戻す。ただし、戻しすぎて山が中央に来てはいけない。



⑤ 三画めの右払いのとめる位置は、上部の最右端のところ。



「書写指導の基本」 氷田作治・柏植昌汎著 より

☒「辶」の指導五つのポイント

「辶」は数多い漢字の部首のなかで、形を整えて書くことがむずかしいものの一つである。児童・生徒の書く、字形上の陥りやすい欠点を分析し、指導上のポイントを五つ示してみる。

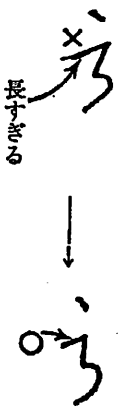
道

「首」と「辶」が調和されていない。

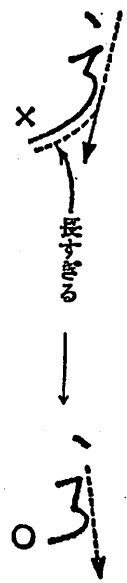
＊ 指導上のポイント

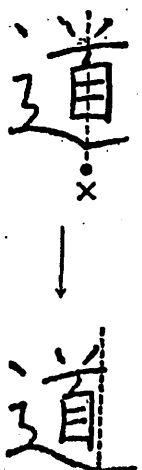
① 一画めの点と二画めの間を広くあける。

② 二画めの始筆部の横を短く書く。



③ 二画めは右下へ向けて書き、左方向へ流さず、下部を長く書かない。



④ 三画めの右払いの始筆部を、少し上へ戻す。ただし、戻しすぎて山が中央に来てはいけない。

⑤ 三画めの右払いのとめる位置は、上部の最右端のところ。